



凡事徹底

当たり前のことを当たり前に

蕨市立第二中学校
学校だより
令和6年度
第10号(2月号)



丸い土俵から何を学ぶか

校長 椿 智絵

3学期は1年の中で一番短い学期ではありますが、各学年それぞれ大きな行事や目標がある学期でもあります。特に3年生は進路決定に向け努力を積み重ねているところかと思います。また、1年生はスキー体験学習を終え、2年生は上野・浅草校外学習に向けての取組が始まりました。一つ一つの活動が4月の進級・進学に向けての準備に繋がります。個々の成長につながる取組になるよう期待したいと思います。

さて、1月19日に千秋楽を迎えた大相撲初場所では、大関 豊昇龍関が12勝3敗で並んだ金峰山、王鵬との3人による優勝決定戦を制し優勝し、第74代横綱に昇進が決まりました。私自身これまではお相撲の取組をじっくり見る機会があまりなかったのですが、お相撲もじっくり見てみるとなかなか面白いことに気付きました。

先場所優勝の琴桜関は、普段は優しいお顔ををしていらっしゃるのに、制限時間がいっぱいになり行司の「時間です」の声の後に、一気に気合の入ったお顔に変わる様子も楽しく拝見させていただいています。次の三月場所ではまたどんな取組が私たちを楽しませてくれるかとても楽しみです。

ところで、元横綱大鵬関のことは知っていますか。

大鵬関は、1960年代に活躍し、ライバルといわれた柏戸とともに「柏鵬（はくほう）時代」と呼ばれる大相撲の黄金期を築いた第四十八代の横綱です。優勝32回、6連覇2回、45連勝などを記録し、昭和の大横綱と称され、戦後最強の横綱と呼ばれていたそうです。幕内最高優勝32回は、現在、最多優勝記録の元横綱白鵬関に続く第2位です。

当時の子供の好きなものを並べた「巨人・大鵬・卵焼き」という言葉がありますが、当時の大鵬関の人気と知名度がわかる事例だと思います。

そんな大鵬関の言葉が、「1日1話読めば心が熱くなる 365 人の仕事の教科書(藤尾秀昭 致知出版社)」にありました。特になるほどと思った部分を書き出してみます。

- ・最初から稽古の好きな力士なんて誰もいない。稽古は好きになるというより、しゃにむにやらされる。そのうちに欲が出てあいつに勝ちたいと思うようになれば、自分で進んでやるようになる。
- ・相撲の基礎は何といっても四股、鉄砲だ。それをみっちりやったことが後でどれだけ役に立ったかわからない。(一日に四股500回、鉄砲2000回のノルマがあった)
- ・誰もが目標だとか夢だとか言うけれどもそういうものではない。毎日同じことの繰り返し。コツコツ、一つのことを根気よく続けるかだ。
- ・大事なものは何の変哲もない丸い土俵から何を学ぶかということ。
- ・まずは根気でしよう。努力して何ものにも負けない精神力を学ぶ。
- ・相撲はこの一番、この1秒が全て。一番で明るくなるか、暗くなるかのどちらか。そのためには、一つの稽古を大事に丁寧にやるかどうか、最後はそこに結び付く。

やはり大切なのは、地道に努力を続けることなのだと思いました。記録や記憶が残る選手は、みな、基本を大切に、コツコツと努力を積み重ねている人が多いようです。

地道な努力を続けることは、簡単そうで意外に難しいものです。二中生の皆さんには、自分の目標に向かって、自分に負けず、努力を積み重ねられる生徒になってほしいと思います。



《学校教育目標》

自ら学び、深く考える生徒	(知)
心豊かで、思いやりのある生徒	(徳)
たくましく、健やかな生徒	(体)

蕨市立第二中学校

電話：048-443-2670 FAX：048-443-2671
URL：<https://daini-j-warabi.edumap.jp>
e-mail：warabi-2@warabi.ne.jp